

JICA 中国事務所ニュース

2009年11月号

【トピックス】

- ◎ 中国の自然環境保全に対する新規協力の実施が決定！ 2

【ニュース】

- ◎ 鄭州市政府より「商都友誼獎」受賞 2
◎ 甘肅省人民政府より「敦煌賞」をいただきました！ 3
◎ 日本の経験、JICA の経験を世界に発信！ 3
◎ 日中都市典型廃棄物資源化セミナーを開催 4
◎ JICA 研修で交渉相手を理解 4
◎ 建設した咸陽市浄水場で通水式を実施 5

- 【寄稿コーナー】 6

- 【帰・赴任者紹介コーナー】 7



R/D 署名を行う山浦 JICA 事務所長(左)と
曲桂林国家林業局国際合作司長



NHK の取材を受けている山浦所長

* お知らせ:

1. 12月11日～13日:安徽省合肥市で日本祭りが行われます。
2. 12月11日～18日:北京市豊聯広場で「瑞麗陽光基金」の社会弱者児童の救済活動写真展があります。JICA の活動も紹介されます。

皆様からのご感想やコメントをお待ちしております。

メールアドレス：shenxiaojing.cn@jica.go.jp

- <http://www.jica.go.jp/china/library/news/index.html>
➤ <http://www.jica.go.jp/china/chinese/library/01.html>

最近のトピックス

中国の自然環境保全に対する新規協力の実施が決定！ ～四川省の被災森林復旧支援と中国西部地区の林業人材育成に関するR/D締結～

「四川省震災後森林植生復旧計画プロジェクト」及び「中国西部地区林業人材育成プロジェクト」のR/D(討議議事録)署名式が11月3日に行われ、両案件の正式な実施が決定しました。これらの案件はJICAの中国への自然環境保全協力の一環であるとともに、四川のプロジェクトは、昨年5月の四川大地震に対する日本の復興支援策の一つでもあります。

四川のプロジェクトでは、地震で森林が大きな被害を受けた汶川県、北川県、綿竹市において森林の復旧計画策定やモデル的な復旧工事を実施するとともに、現地の技術者や管理者の育成を行い、中国が被災地に適した森林復旧を行えるようになることを目指します。プロジェクトは2010年から5年間実施される予定です。

西部の林業人材育成プロジェクトでは、四川省、陝西省、広西チワン族自治区、寧夏回族自治区をモデル地区として、中国の林業分野で現在最も重要な課題となっている集体林権制度改革と国有林場改革の2つのテーマに関する人材育成を行います。プロジェ

クトは2010年から4年間の予定で、3,000人以上の林業関係者の研修を行い、その経験を他の西部地区に広げていきます。

中国の自然環境保全は日本にも大きな影響のある分野であり、また地球温暖化対策としても重要な分野です。そのため、自然環境保全はJICAの対中国協力の重点分野の1つになっており、JICAは20年以上にわたってこの分野の協力を実施してきました。その成果は両国関係者に高く評価されており、今回のR/D署名式でも国家林業局、四川林業庁、管理幹部学院といった機関から日本の支援への感謝や期待、プロジェクト実施に向けた決意が述べられました。日本大使館、JICA事務所からは、日本がこの分野を重視しており、今後も積極的に協力を行っていくことが述べられました。両プロジェクトを通じて中国の環境が改善されるとともに、日中間の友好関係が更に深まることを期待しています。(足立佳菜子)

ニュース

鄭州市政府より「商都友誼獎」受賞

節水型社会構築モデルプロジェクトでは、中国水利部と協働で行う水資源管理制度改善の検討や節水技術研修・普及啓発活動を通して、水資源管理担当者の節水の促進のための能力向上を図っています。また、河南省鄭州市及び山東省淄博市にそれぞれモデルサイトがあり、短期専門家チームによって、効率的な水資源管理に向けた利水計画の作成や維持流量の設定等について、現地カウ

ンターパートと協働で作業を行っています。そうしたなか、9月25日に、短期専門家チーム(リーダー:古川隆司)が、モデルサイトのある鄭州市政府より、「商都友誼獎」を受賞しました。

この賞は、経済や科学技術の発展、その他の分野で、鄭州市に貢献した外国人に授与されるもので、今回が第2回目であり(第1回目は2005年)、11名の外国人が表彰され

ています。



受賞された古川隆司(左側)

当プロジェクトに関係する全ての方々の努力がこのような形で表彰されたものとして、喜びを分かち合うとともに、今後もプロジェクトの活動に積極的に取り組みたいと思います。なお、鄭州市、淄博市、北京市では、供与車輛が、日中協力と節水のアピールに一役買

っています。これらの供与車輛には、両側に全国節水ロゴ、ODA ロゴ、右側にはプロジェクト名「中日合作 節水型社会建設示範項目（日中協力節水型社会構築モデルプロジェクト）」、左側にはスローガン「節約水資源是我們的責任（節水は私たちみんなの責任です！）」が記載してあり、日々、市民に対し節水を呼びかけています。北京市も慢性的な水不足が続いている地域ですので、皆さんもぜひ節水に努めてください。

（節水型社会構築モデルプロジェクト長期専門家竹島睦、泉博隆）

甘肅省人民政府より「敦煌賞」をいただきました！

2006年8月から2年余、「甘肅省 HIV/エイズ予防対策プロジェクト」でチーフアドバイザーとして活動してきました。甘肅省は HIV 低流行地域ですが、中国でも一、二を争う貧困省でもあり、HIV/エイズ問題もさることながら公衆衛生上の基本的課題が山積する地域です。短いプロジェクト期間内に課題解決の方向に導くには、地域レベルの公衆衛生技術者の能力強化を活動の中核にすべきとの判断から、HIV/エイズを切り口に「IEC・健康教育」をテーマにワークショップ等を持続的・系統的に実施しました。そして問題解決・目標

達成できる人材の発掘・速成に一定の道筋をつけたのち、昨年9月、プロジェクト終了を待たず、一足先に帰国いたしました。かつて安徽省でも「黄山友谊賞」をいただいたのですが、それに引き続いての受賞は地方政府がプライマリーヘルスケア従事者の能力強化の重要性を強く認識している証左と考えますと、農村地域の人たちのお役に少しでも立てるよう、今回の受賞を励みに中国の大地でもう一踏ん張りしてみようか、と想う今日この頃です。（甘肅省 HIV/エイズ予防対策プロジェクト 元チーフアドバイザー：福原毅文）

日本の経験、JICA の経験を世界に発信！

～アジア太平洋会議での一幕～

10月18日～20日までの3日間、北京で「第5回リプロダクティブ・セクシュアルヘルスアジア太平洋会議（5th APCHSHR）」が開催されました。この国際会議は国際NGOである国際家族計画連盟（IPPF）の呼びかけにより開始されたもので、フィリピン、タイ、マレーシア、インドに次いで今回、中国北京で第5

回目を迎えました。中国ではJICAのパートナーでもある国家人口計画生育委員会が会議事務局を務めました。

JICA は二国間協力の実施機関ですが、このような国際舞台で成果を発信することも重要なことです。今回、JICA では90分の枠を確保し、インドネシア（母子手帳）と中国（家

庭保健サービス)の経験を基に意見交換セッションを設けました。リソースパーソンとして、国立保健医療科学院の林院長、インドネシア保健省のムラティ課長をお迎えしました。コミュニティで形成したモデルをモデルで終わらせず、どのように国家レベルに吸い上げ、普及拡大してきたのか…。セッションではそうした観点からリプロダクティブヘルス・母子保健分野におけるJICAプロジェクトの仕組みと方策、また普及拡大プロセスにおけるドナー(国際機関・NGOなど)の協調のあり方について発表・議論しました。参加者にはウガンダの財務企画大臣をはじめ、政府機関、NGOなど多様なメンバーが集まり、JICAプロジェクトへの関心の高さが伺えました。

また、別途行われた高齢化シンポジウムでは、林院長が日本の人口高齢化の現状と対策について事例発表を行いました。高齢者ケアに従事する高齢者自身(60歳以上)の割合が60%以上と高まっており、その多くが平均寿命の関係から女性(妻)であること。最近では、介護苦から自殺問題も生じていることを発表すると、参加者の中から驚きの声が聞かれました。今後、日本に次いで高齢化社会に突入する中国。一歩先を歩む日本の経験も参考にしつつ、予防策を強化していくことが期待されます。

次回、この会議は2年後にインドネシアのジョグジャカルタで開催されます。国際会議への参加は成果の発信のみならず、発表する側にとっても、活動の整理・分析が進み、カウンターパートのモチベーション向上につながります。今後も機会をとらえて、このような会議への参加を積極的に検討していきたいと思えます。(小田遼太郎)



JICA セッションの発表を終えて



閉幕式では全員で手をつないで合唱しました

日中都市典型廃棄物資源化セミナーを開催

10月13日・14日にかけて、北京市内のホテルで「日中都市典型廃棄物資源化セミナー」が国家発展改革委員会を始めとする、全国各地からの廃棄物処理を担当する行政官等約60名の出席者を得て開催されました。

これは、発展改革委員会から要請されている、「都市典型廃棄物資源化プロジェクト」の事前の調査の一環として開催されたものです。セミナーでは、現在中国で問題になっている、毎年3000万トン排出されている食品ゴミを始め、包装ゴミ、廃タイヤ、そして庭園ゴミ

ミのリサイクルについて、日本と中国の現状と処理方法に関し、相互に発表を行ないました。この直前に北京で開催された日中韓首脳会談でも日中韓循環型経済モデル拠点設立の探求が謳われたこともあり、時宜を得たものでした。

今回のセミナーの議論を元に、今後JICAと国家発展改革委員会とプロジェクトの案をしっかりと議論し、案件の実現に向けて努力したいと思います。(大久保晶光)

JICA 研修で交渉相手を理解

10月19日から10月30日にかけて、JICA「経済法・企業法整備プロジェクト」の一環として、「市場流通関連法整備支援研修」が行われ、商務部・国家発展改革委員会・交通運輸部・海関総署から流通・物流政策を担当する処長級以下の職員16名が日本で行われた研修に参加しました。

今回の研修の趣旨は2つあります。1つ目は、6月の日中ハイレベル経済対話で設置を決めた局長級の「日中物流政策対話」を開始するにあたり、両国の関係省庁の職員同士で互いの政策や組織の体系への理解を進めること。2つ目は、日本の小売業や物流業の中国進出が進む中で、日本での流通・物流政策が歩んだ「規制緩和」「手続き透明化」といった変遷や経験を中国と共有し、中国における合理的な立法や法の運用を促すことです。

この研修の機会に、両国の流通政策・物流政策の範囲の違いや関係省庁の役割、協力体制など、今後「日中物流政策対話」を進めていく上で重要な基礎的な情報交換を行うとともに、日本側の提起したい問題意識を十分に伝えることができました。また、日本の小売業の社会インフラ的意義や「まちづくり三

法」等の変遷を伝えつつ、日本の小売業から、中国での事業遂行上の課題等を伝える機会も設け、直接の意見交換を行うことで、中国政府の職員が日本企業の中国市場改善ニーズを吸収してもらうことができました。

しかし、今回の研修を担った経済産業省流通・物流政策室や国土交通省物流政策参事官室にとっての最大の意義は、日本側職員にとっての刺激だったと思います。途中、地方視察や食事会にも積極的に職員を参加させて個別のコミュニケーションをとる努力をした結果、「今後一緒に仕事をしていく相手」としての認識も深まり、職員の中には「中国側職員との熱心な議論を通じてこれまでの中国認識が改められた」とコメントする者もいたように、日本側の職員の意識改革に資することができたことが一番の成果ではないかと考えています。

JICA 研修は、「東アジア共同体」を提唱する新政権の中で、極めて重要な各国の政策担当者同士の理解の深化に非常に役立つツールであることを今回改めて認識しました。今後も積極的な活用を進めていきたいと考えています。(経済産業省 流通・物流政策室 課長補佐 浅野 大介)

建設した咸陽市浄水場で通水式を実施 ～円借款事業「陝西省水環境整備事業」～

「陝西省水環境整備事業」のサブプロジェクトの一つである咸陽市浄水場が完成し、2009年10月28日午後3時、通水式が開催されました。

本事業は、2004年度の円借款供与案件の一つで、承諾金額は7.7百万円。咸陽市の浄水場建設は、本事業中最大のサブプロジェクト(約42.46億円)であり、72.6キロにわたる導水管の敷設もあわせて実施された結果、水供給能力が1.48万 m^3 /日から、34.5万 m^3 /日へと増強されました。同省では従来より水不足問題に頭を悩ませており、今回の浄水

場完成により、咸陽市区だけでなく、興平城区、武功県を含めた60数万人の水供給体制が改善されることとなります。また、本事業は、水の供給量不足ならびに水質改善を目指す陝西省水資源戦略構想の一部を担っています。

式典には、陝西省の姚引良副省長、咸陽市千軍昌市委書記、咸陽市庄長興市長をはじめ、陝西省・咸陽市関係者及び浄水場の建設に関わった設計、施工等の実施機関が参加しました。JICA 中国事務所山浦所長から送付した祝辞レターの読み上げに続いて、

姚副省長より通水令を發布し、運転の正式開始を宣言するといったイベントも行われました。この様子は、陝西省・西安市テレビ局にて当日夜のニュースで放送されたほか、新聞など多くのメディアにおいて取り上げられ、

注目を集めました。

(王飛)

寄稿コーナー

(1) JICA 長期研修生同窓会による太陽村への公益活動を実施!



太陽村の前での集合写真

2009年11月8日曜日、JICA 長期研修生同窓会の代表 13 名が北京市順義区趙全營鎮の板橋村にある北京市太陽村児童教育コンサルティングセンターを訪問し、同窓会で心を込めて準備したプレゼントを贈りました。太陽村は非政府慈善組織で、設立以来 14 年間に渡り、服役中の親を持つ未成年の子供達の養育や教育を無償で行っており、現在全国に計 6 カ所の拠点を持っています。

到着後、太陽村の辺先生から太陽村の歴史や近況につき詳細な説明を聞きました。同窓会の葛偉軍理事長も太陽村の子供達に JICA や同窓会に関する紹介を行い、子供達

へ勉強に励み、健康に成長する様、心を込めた激励を送りました。引き続き、同窓会一同は中学部の子供達 9 名と交流し、心を込めて準備したプレゼントを贈りました。プレゼントの内容は、太陽村で世話している赤ちゃんの為に粉ミルク、使い捨てオムツ、電子体温計、スキンケアクリームや、年長の子供たちの為にスケートボード等でした。この他にも、梁穎氏等同窓生達も玩具や衣類を特別に贈りましたが、向虎氏は会議の為に同行できませんでしたが、子供達の為に 500 人民元を別の参加者に託しました。

その後、太陽村の工芸訓練現場を見学した際、同窓生達は子供らしさに溢れたものや手が込んだもの、様々な刺繍品に感銘を受け、次々に購入していました。また、多くの同窓生が植樹募金を行いました。私達は皆、この様な方式を通じて太陽村への公益事業の力になることを望み、また、これを機会に太陽村との関係が継続し、発展することを期待しています。

(JICA 長期研修生同窓会 何霞)

(2) 北京マラソン 2009

北京マラソン2009。中国 JICA 関係者からの参加は、フルマラソン6名、ハーフマラソン3名。秋晴れの北京で、さわやかな汗を流しました。参加者は約2~3万人。天安門広場からスタートし、最後は鳥の巣(北京五輪メイン会場)を左手に見ながらゴールに向かう、なかなかすばらしいコースでした。あなたも

来年の北京マラソンに挑戦してみませんか？

◆◆完走者の声◆◆

ノリで参加した初マラソン。めちゃくちゃ痛い目に遭いました。でもやっぱりノってよかった！完走できたことで大満足です！！(青年海外協力隊 花田藍子)

今回のマラソンの為に1年以上前からトレーニングを始め、当日のレースは歩くことなく最後まで走りきれて達成感で感無量です。記録3時間56分08秒。(青年海外協力隊 松井真也)

走るのが大嫌いな私ですが、なんと海外でマラソンデビューしてしまいました。筋肉痛はひどいですが、応援してくれる人に手を振ったり、隣を走っている人とおしゃべりしたり、励ましあったりして完走できたことは、とても良い思い出です。(青年海外協力隊 岡本和恵)

ずっと目標にしていた北京マラソン。4時間20分、苦しいときもあったけどゴールした時の充実感は言葉になりません！ 応援してくれたり、心配してくれたり、たくさんの方に感謝です。そして、新たな目標に向かって再スタート！！(青年海外協力隊 桂理江子)

人生初のマラソン参加。マラソンは個人競

技ですが、共に練習した学生、共に参加した仲間、全然1人じゃなかったです。ありがとうございました！（青年海外協力隊 陶山武嗣）

北京マラソンに参加して、すごく感動しました。走っていた日本人、アメリカ人等の笑顔を見て心の中はなんとなく暖かくなってきました。(蘭州理工大学4年 王全喜(陶山隊員の教え子))

完走に向けての日頃からのトレーニングは、最高のメタボ対策ですよ。(ボランティア調整員 古川寛)

走っているときに聞こえる「加油！」という応援に何度も助けられました。(企画調査員 木下真人)

「初マラソン、走った後が、大変だ」北京はデカいです。(事務所員 那須毅寛)

日本の大会とは違う雰囲気中国の悠久の歴史を感じました。(事務所員 坂元芳匡)



天安門広場をスタート



やる気満々の中国青年海外協力隊ランナー達

帰・赴任者紹介コーナー

21年度3次隊が赴任しました



今月3日、21年度3次隊の青年海外協力隊5名とシニア海外ボランティア1名の計6名が各地の配属先へ赴任しました。

彼らは日本で2ヶ月語学研修を受けた後、先月北京に到着。北京でも約3週間にわたり、より実践的な語学研修の受講したり日本大使館など関係機関への表敬訪問をしたりしました。

彼らの任期は2011年10月までの2年間。今後



独立行政法人 国際協力機構
中華人民共和国事務所

北京市朝陽区東三環北路5号 北京發展大廈400室 郵便番号：100004
TEL：+86-10-6590-9250 FAX：+86-10-6590-9260

の活躍が期待されます。

■青年海外協力隊

(日本語教師)

川崎いつか 山東省ウェイ坊市
山東科技職業学院
川内美和 寧夏回族自治区銀川市
北方民族大学
武田文枝 河南省信陽市
信陽師範学院
松野志歩 雲南省昆明市
雲南師範大学

(幼児教育)

鶴田さゆり 重慶市
南坪実験幼稚園

■シニア海外ボランティア(乳牛飼育)

木花信一郎 黒龍江省安達市
先源郷友誼牧場

(ボランティア班 鈴木大介)

